

TRネット 市民に拡大

国立がんセンター 土屋 了介氏に聞く
中央病院病院長

基礎的研究成果を実用化するための橋渡しを行う研究（TR）を主な目的とするNPO法人、健康医療開発機構は広く市民を交えたネットワーク構築に動き始めた。その一環として2月23日、がん対策基本法制定など国の対応も真剣さを増しているがん診療の課題や将来像をテーマにした大規模なシンポジウムを東京都内で開催する。シンポを機に市民向けの情報提供を一段と拡充するほか、提言なども行う考え。NPO法人の主要メンバーで健康改革の論客でもある国立がんセンター中央病院の土屋了介病院長にがん診療のあり方などを聞いた。

（竹本祐介）

「がん診療に関する最近の動きは。」「都道府県ごとに整備するがん診療連携拠点病

院に關してだが、大学病



院の中に腫瘍センターを

つくて拠点病院になる

とかが増えてきた。こ

工学融合など研究体制必要

来月23日 東京でがん診療テーマにシンポ

れまではがんだけの専門

病院的なものを意識して

者が多く、他の病気も抱

え、新たな技術開発も必

を解明してやっていくこ

「新しい治療法や、も

とも必要だ」

「高度治療の集約が必

また、がんの拠点連携病

「一方、医療機器の開

活動は。

「今回のシンポジウムはNPO法人の活動を世に広げる第一歩。がん対策基本法など体制はできつつあるが、問題はまだまだたくさんある。今後は研究助成などの提言も要る。企業や自治体の支援を受けながら取り組んでいきたい」

きたが（変わってき

いくことにもなった」

「がんの患者は高齢

「がん診療に関する最近の動きは。」「都道府県ごとに整備するがん診療連携拠点病

院に關してだが、大学病

院の中に腫瘍センターを

つくて拠点病院になる